

米作転換と飼料作物

—省力的な牧草栽培で自給率をあげましょう—

政府が こんど総合農政の名のもとで明らかにされた生産物の需要と生産の長期見通しは、これまでの基本法農政の柱であった選択的拡大政策を具体的に示したものであり、農産物の輸入制限の撤廃、農家減少政策と共に、当面する米の生産調整として 米の作付制限の方針をはっきり打出されました。

我国の農業もいよいよ大きな転換期を迎えたわけで、この厳しい現実の問題をどう判断し、どのように転作を進めていくべきか、早急に解決しなければならない重要な問題です。他作物の転作についても、生産物の価格や販売・流通など一連の問題を十分に検討し、水田を総合的に 利用する長期的な対策をたてることが大切でしょう。

畜産の基盤をなす飼料作物は、乳牛の多頭飼育地帯では これまで充分であるとは云えず、農林省も 畜産振興の意味でも、これら飼料作物が優良転作物の一つにあげられております。飼料作物が優良転作物として、奨励されている理由としては、

- ①自給粗飼料の増産による飼料費の節減
- ②野菜類などのように、生産量の増大による価格暴落の危険性がない
- ③田畑輪換を行えば、米の増収と飼料の生産が行える
- ④省力的に栽培でき、転作による労働力に無理をきたさない
- ⑤集約的に多毛作を行えば、米作に匹敵する収益をあげることができる

などのいくつかの利点があげられます。

水田酪農地帯では容易に とり入れられ、粗飼料の自給率をあげるのに最も望ましいものです。水田単作地帯では、農協などが中心となって飼料づくりの集団化をはかり、生産体制と販売流通対策を前提として 導入し有利に販売に結びつけられるでしょう。

転換作物として とくに奨励される種類は、春まき青刈作物として、ソルゴー、デントコーンなどがありますが、府県における秋まきの主体となる牧草類は数多くの種類があります。とくにイタリアンライグラスは これまでも水田裏作用としても、年々その利用が増大し、この中でマンモスイタリアンは優れた収量をあげ、転作用としては 最適です。又マンモスイタリアンを組合せた多収かく法(4頁参照)、2～3年の田畑輪換や半永久的な牧草畑とした牧草の混播は省力的有効的に良質の青草が利用できるものです。

青草の最盛期には、乾牧草や、バキューム・サイロによるエンシレージの調製も可能で、計画的に年間給与体系を確立しましょう。